

## 9. え し せいちょうえん 壊死性腸炎

ストレスに弱い未熟な腸管に、血行障害による粘膜損傷や細菌感染などが重なることで重度の損傷（腸管壊死）が起こる病気です。壊死に陥った部分に穴があいたり（穿孔）、病変部から細菌が入り重い感染症を引き起こすこともあり、医学が進歩した現代でも死亡率が高い合併症です。病態は十分には解明されていませんが、母乳には壊死性腸炎を予防する効果があると言われており、未熟な赤ちゃんほど母乳栄養が推奨されます。壊死性腸炎を発症した場合は腸を休ませるため絶飲食とし、細菌に対する抗菌薬を使用します。重症の場合、手術で病変部を切除したり人工肛門を作って通過障害に対応します。近年の発生頻度は比較的低いですが、その後の栄養障害や発達にも影響する心配な合併症です。

## 10. 未熟児くる病

骨の成長に必要なミネラル（カルシウムやリンなど）をお母さんからもらう前に生まれた早産児は、ミネラル不足の状態にあります。そのため密度の少ない骨になってしまい骨折を起こすことがあります。ミネラル不足を防ぐために母乳強化パウダー（HMS-1、HMS-2）を加えて飲ませたり、ミネラルの強化された早産児用人工乳を使います。早期からの栄養管理により、現在は未熟児くる病で骨折することは少なくなっています。

○早産児、低体重児の子達には、平均は無いのかなと思います。一步一步ゆっくりでOKと思い、楽しく息子の成長を見守っていくつもりです。小さく産んでしまい申し訳ないという気持ちもありましたが、今は一生懸命成長する息子を家族みんなで見守り、Happyな日々をすごせていると思います。（34週、1,330g 出生、現在1歳）